

シンポジウム「女性とスポーツ」を受講して

現代教養学科 3年 安部葉南

昭和女子大学では国際女性デーを前にした3月6日、「女性とスポーツ」シンポジウムがオンラインで開催された。東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会・森喜朗前会長の発言を受けて緊急で企画され、稲澤裕子・昭和女子大学特命教授、小笠原悦子・順天堂大学 女性スポーツ研究センター長、宮嶋泰子・一般社団法人カルティベータ 代表、境田正樹弁護士、武川恵子・昭和女子大学 女性文化研究所所長・グローバルビジネス学部教授が参加した。

ブライトン宣言で男女平等を推進

シンポジウムでは、小笠原悦子 順天堂大学 女性スポーツ研究センター長による基調講演「スポーツと男女平等～ブライトン+ヘルシンキ2014宣言に学ぶ～」が行われた。長いオリンピックの歴史の中で、女性がどのよう

に大会参加していくようになったのか、スポーツにおける女性の立場について語られた。講演の一部を紹介したい。

第1回オリンピックでは、女性が出場できる競技が存在せず、観客としてしか受け入れられなかったのである。それが今年開催予定の東京大会では、選手の女性比率が48.8%と、選手の男女比率がほぼ等しくなった。

では、なぜそこまで選手の女性比率が高くなったのだろうか。その1つに1994年に開催された「第1回世界女性スポーツ会議」で発行された「ブライトン宣言」の存在が大きいという。宣言は「全ての女性が公平にスポーツに関わることのできるスポーツ文化を構築すること」が目的とされている(右)。「世界女性スポーツ会議」はその後も4年に1度開催され、次回は2022年にニュージーランドのオークランドで開かれる。

現在は基本精神はそのままに「ブライトン+ヘルシンキ2014宣言」が発行され、日本では2017年にスポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本体育協会(現:日本スポーツ協会)が署名している。

小笠原氏の基調講演に続き、武川教授をファシリテーターに、パネリスト4人によるディスカッションが行われた。ここでは、スポーツにおいて女性がどのように活躍していくべきなのか、選手がより良いパフォーマンスをするための組織のあり方などが議論された。

シンポジウムを聞いて

このシンポジウムを通して、女性活躍のためにたくさんの人が尽力していたことがわかった。特に「初めてのオリンピックに女性が参加できなかった」という史実には仰天だった。「私が見てきたオリンピックは男性選手も女性選手も出場していたため、その男女比率も徐々に変化していることにも驚いた。

加えて、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)についても深く考える機会になった。いま自分が持っている考え方は偏見ではないか、と考え直すようにすることで、様々な人の生き方について考えることができた。

創立100周年記念特別講座「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」を開催

創立100周年記念特別講座「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」が5月に開かれ、5つの分科会①女性の働き方・経済・雇用②女性のリーダーシップの育成 ③Global campus、Global future④(人生100年時代)のsmart&active aging⑤母校(母港)に期待すること——で在学生、卒業生、教職員が熱



第13回昭和女子大学女性文化研究賞(坂東眞理子基金)『一人っ子政策と中国社会』小浜正子氏に贈呈

男女共同参画社会の推進、女性文化研究の発展に寄与する本を顕彰する「第13回昭和女子大学女性文化研究賞(坂東眞理子基金)」が、小浜正子・日本大学文理学部教授による『一人っ子政策と中国社会』(京都大学学術出版会)へ贈られました。

受賞作は、歴史学の立場からジェンダー、特にリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関わる国家政策として世界に衝撃を与えた中国の一人っ子政策について、上海と農村地域で実施に当たった当事者たちと、政策の対象になっ

学報委員会から 委員長 高橋 未優(国際学科2年)

学生自身が考え、感じ、執筆する、という学生らしさを大切に学報委員会は活動しています。執筆した記事が昭和女子大学の歴史の一部として後世へ受け継がれる、その意義を尊重しながら、今後も発信し続けていきます。

【学報委員会】歴史ある大学新聞「昭和学報」を執筆するチームです。昭和学報を年2回発行するほか、記事を大学ホームページ(QRコード)に掲載しています。



”To enable and develop a sporting culture that values the full involvement of women in every aspect of sport”

スポーツのあらゆる分野へ女性が最大限に参加することに価値を認め、それを実行可能にするスポーツ文化を発展させること



多種多様な人々が生活の中で「皆が生きやすい」と思う生活を実現することは難しいだろう。しかし様々な生き方や考え方を知り、広い視野を持つことで、色々な考え方を理解できるようになるのではないだろうか。その理解が、スポーツ界からも広がってほしいなと感じた。

同時に「女性活躍の場を広げる」という活動の大前提には「能力のある女性」が適切な処遇を受けられない」という考え方があるだろう。この先、性別が人の判断材料として扱われない時代に生きるためにも、もっと自身を磨いていく必要があると感じた。

第630号 2021年7月1日

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
編集発行人 学校法人 昭和女子大学広報部

昭和学報

S H O W A G A K U H O

未来に挑戦!—成長する昭和女子大学

withコロナの中でもできることを

コロナ・パンデミックは2021年度になっても収束せず、三度目の緊急事態宣言が出されました。今年度は昨年できなかった活動を復活できるかと思っておりましたが、しばらくコロナとの付き合いが続きそうです。

本学の特徴である学業研修、女性教養講座、文化研究講座などは状況に応じてオンラインで伝統を引き継ぎます。ポストンへの留学も2021年度前期はビジネスデザイン学科の学生が東京にいながら、ポストンからの授業を受けています。今後ポストンへ留学する学生は、昭和ポストンの手配でワクチンが接種できるとのことですが、渡航は日本外務省のアメリカへの判断をみながら早期再開に向け対応を検討しています。このような時こそ同じ敷地にテンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)があるメリットを活用するよう努めています。国際部に続き新しくビジネスデザイン学科とのダブルディグリー・プログラムもスタートします。

就職活動もオンラインを活用し、サポートに努めています。オンラインでのシンポジウムやプロジェクトは講師に海外や遠隔地に



理事長・総長
坂東 眞理子

住んでいる方にも参加していただける、出席者もどこからでも参加でき人数を限定する必要がないというメリットもあるので活用していきたいと思います。

今年度は新しく社会人向けの経営大学院がスタートしました。福祉共創マネジメントコースと、消費者志向経営コースです。現場で責任ある立場の方々、仕事を持ちながら平日夜と土曜日の授業に対面で出席したり、オンライン授業を活用したり、熱心に学んでおられます。

コロナ禍の中でも、今できることを着実に積み重ねていきます。

多様な留学制度を通して育む知性と発信力

国際学部では、全学生が本学の海外キャンパスである昭和ポストンや世界各国の協定校で半年から2年の留学生活を送ります。昭和ポストンでは語学や専門の学びに加え、ボランティアやプロジェクト活動を通じて地域の課題解決に取り組めます。また、本学と海外大学の2つの学位を取得することができるダブルディグリー・プログラムに参加する学生も増えています。

国際学部
国際学科
英語コミュニケーション学科
学部長 **川畑 由美**

社会的課題に専門知識と実践力で貢献する

人間社会学部の4学科は、それぞれ「こころ」「福祉」「教育・保育」「リベラル・アーツ」の専門的知識に加え、様々な実習やプロジェクト活動を体験することで問題解決に関わる実践力を修得します。これらの学びを通して、多文化共生社会における社会的課題を理解し主体的に社会貢献できる実力を養います。

人間社会学部
心理学科/福祉社会学科
初等教育学科/現代教養学科
学部長 **田中 奈緒子**

グローバルに活躍できる人材を育成

女性の活躍は、日本経済における喫緊の課題となっています。女性がビジネスを開拓、変革する「ビジネスデザイン学科」、高度な理論を学び、実践に活かす「会計・ファイナンス学科」の2学科では、ビジネスでのスキル・知識と同時に、自分から行動する自発性を身につけて、グローバルに活躍できるビジネス人材を育成します。

グローバルビジネス学部
ビジネスデザイン学科
会計・ファイナンス学科
学部長 **武川 恵子**

現代の社会・生活に新たな「デザイン」を提案する

変化していく現代の社会・生活への新たなデザインの提案を試みていきます。建築・インテリア、ファッション・マネジメント、プロダクトとデザインの企画を行うプロデュースの4コースで構成されています。互いの分野を理解しながらそれぞれの専門性を高め、互いに学び、現代に適應できるデザインプロセスを学ぶことができる教育を目指します。

環境デザイン学部
環境デザイン学科
学部長 **金尾 朗**

INDEX

- ごあいさつ **1**
- キャンパスライフ **2**
- グローバル・キャリア **3**
- 教養 **4**



学長
小原 奈津子

教育が展開されています。国際学部やビジネスデザイン学科の学生は留学だけでなく、協定留学先の大学の学位も取得できるダブルディグリー・プログラムにも挑戦することができます。

大学院では今年度から社会人対象の1年制コースが開設されていますが、来年度から生活文化研究専攻ではアーキビスト養成プログラムも始まります。

本学ではこの他にも様々な教育プログラムが実施されています。学生のみならずには貪欲に学び、色々な体験にチャレンジしていただきたいと思います。

文化や歴史を読み解くことで本質を捉える力を養う

人間文化学部には、各学科の専門科目を体系的に学ぶ、学部共通の日歴クロスオーバープログラムがあります。更にデジタル・アナログを問わず、様々な情報を的確に扱い、分析する方法を学ぶことで、情報化社会での適応力を養います。またTUJとの連携や多彩な留学プログラムにおいて、多様な人々と協働し、課題解決を実現する場を提供します。

人間文化学部
日本語日文学科
歴史文化学科
学部長 **山本 晶子**

「食」だけじゃない+aで未来を作る

食は命を紡ぎ、未来を作る力です。人々の命につながるため、たくさんの知識が必要です。だから、食健康科学部では「食+a」を学びます。栄養を学び「健康と美」を探究し、栄養で「人を見る」ことでQOLの向上に貢献し、科学的に食の「安全」を学び「ビジネス」に活かします。食のスペシャリストを育成し、社会に笑顔と希望をお届けします。

食健康科学部
健康デザイン学科/管理栄養学科
食安全マネジメント学科
学部長 **小川 睦美**

科研費 教員の研究

—2021年度「科学研究費等助成事業」に採択された研究—

新規採択研究

- 基礎研究(C)
- ・川端文学におけるアダプテーションの考察—活字から舞台・映像への翻案— 福田 淳子准教授
- ・評価をめぐるやりとりと分析—英語母語話者と日本語母語話者の会話を資料として— 山本 綾准教授
- ・多言語多文化社会構築に向けた高大接続のスペイン語教育—小倉 麻由子特命講師
- ・乳児保育の質向上を支える対型園内研修の検討:「食」を通して包括的な園理解から— 遠藤 純子准教授
- ・「疲労感」軽減効果のある食品成分は?「疲労そのもの」を軽減しているのか?—渡辺 睦行准教授
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス
- ・なぜ病気と食品との因果関係がわかるの?—DOHaD研究?—ってどんな研究—小西 香苗准教授
- ・染色のなぞを知って My サマーバッグを染めてみよう!—下村 久美子教授

継続研究

- 基礎研究(B)
- ・放射光X線CTによる非破壊での日本刀の体系的研究:作刀技術解明にむけて— 田中 眞奈子准教授
- ・外国人労働者の定着促進のための協働型受け入れ環境の構築—近藤 彩教授
- 基礎研究(C)
- ・英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用句を中心とした絵本教材の作成と提供—金子 朝子特任教授
- ・レビ-小体型認知症の鑑別に有用な心理検査「バッテリー」の検討—村山 憲男准教授
- ・学びを学ぶ小学校プログラム授業と教材開発—森 秀樹准教授
- ・保育所における食事援助の質向上を目指す研修ツールの開発:多職種アプローチを通して—遠藤 純子准教授
- ・診療・介護・障害報酬に横断的かつ統合的な財務情報および非財務情報に関する調査研究—井出 健治郎教授
- ・戦後日本における世俗の慰霊空間の研究—戸田 稔専任講師
- ・谷文見一門の研究—江戸後期の文人社会における交流を軸として—鶴岡 明美准教授
- ・ムダルニズマ絵画研究—ールシニョルヒカザスを中心に—木下 亮教授
- ・古・中英語圏における女性聖人伝の系譜研究:Aelfricのテキストと言語を中心に—島崎 里子准教授
- ・現代モンゴル語書きことばの形成—呼和巴特爾教授
- ・日本大学生英語学習者への会話指導における協働創作活動を統合した教育法の提案—竹田 ら特命講師
- ・教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査—大場 美和子准教授
- ・「超規」による共創で創出する中等教育カリキュラム・オンラインレバニーションの探求—緩利 誠准教授
- ・基礎的な包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクスの根拠と教示方法の明確化—秋山 久美子教授
- ・閉閉症スペクトラムの対人社会性の解明—主観統覚検査の物語反応と視覚運動から— 田中 奈緒子教授
- ・クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価とGADD34に着目した分子メカニズムの検証—渡辺 睦行准教授
- ・近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程—学校外の教育活動に着目して— 早川 剛准教授
- ・日本語における複合述部の統語分析—浅田 裕子准教授
- ・知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動にもたらす効果—根本 治代准教授
- ・中小食品製造企業における営業担当者の人材育成に関する研究—清野 誠喜教授
- ・DOHaD概念に基づく次世代を担う女性の出生体重とその後の体格—小西 香苗准教授
- ・食品中のニトロ化トリプトファン生成が生体へ及ぼす影響の解析—川崎 広明専任講師
- ・言語マイノリティの医療保障のための患者の権利に関する比較的研究—森本 直子准教授
- ・認知症高齢者の自立生活支援をめざすヘルパー経験者の検証と活用—中矢 亜紀子専任講師
- ・地域コミュニティとデジタル技術を基盤とした児童学習センター開発に関する実証的研究—森 秀樹准教授
- ・MMSEを用いたレビ-小体型認知症の簡易鑑別法:高齢者に負担をかけない新しい評価—村山 憲男准教授
- ・グルタミン酸回収機構を調節する神経細胞とアストロサイトのクローブ—林 眞理子准教授
- ・快楽性食欲との関係性からみた抑制機能の操作による摂食行動の変容可能性—山中 健太郎教授
- ・食事栄養因子に基づくアラキドン酸代謝経路における統合オミクス解析法の確立—花香 博美教授
- ・地域コミュニティに基づくメディア・デザイン実践の方法論に関する研究—鳥海 希世子専任講師

国際共同強化B

- ・「チンギス・ハーンの長城」に関する国際共同研究基盤の創成—ホルジギン 呼斯勒教授

若手研究

- ・戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソッド研究—小川 豊武専任講師
- ・ペニコウエキスの安全性評価:標準化および医薬品との相互作用を中心に検討—横谷 倫倫専任講師
- ・我が国に起因する健康問題発症メカニズム解明とこども食堂を介した解決システム構築—黒谷 佳代特命講師
- ・貧困の小・中学校におけるSTEM教育普及に向けたプログラムの開発と人材育成—白飯 哲久准教授
- ・第二言語の文法知識を運用可能とするコミュニケーション文法練習方法の検証—大場 眞志専任講師
- ・イノベーションの支援者と企業家の利害対立発生メカニズム:利害の経時的変化への注目—三浦 紗紗子専任講師
- ・19世紀プロイセンにおけるミュージアム政策の教育思想的背景—伊藤 敦広専任講師
- ・子育て家庭に対するソーシャル・サポートが保護者及び子どもに与える効果の検証—野崎 茉莉専任講師
- ・多様な情報社会の生成過程を描く:ブライトンにおけるビデオゲーム普及を手がかりとして—藤原 聖特命講師

秋桜祭

COSMOS School Festival

11月13日^土 14日^日

※対面とオンラインのハイブリッド、もしくは全面オンライン開催を予定しています。

[キャンパスライフ]

CAMPUS LIFE

昭和女子大学では、社会の課題解決に取り組むプロジェクト学修や、宿泊を伴う伝統ある学寮研修など、多彩な交流や出会いのなかで学生たちが日々成長しています。

入学直後の新入生をサポート ～上級生主催懇談会の魅力～

歴史文化学科 3年 日高彩貴・国際学科 2年 高橋未優・現代教養学科 3年 安部葉南

昭和女子大学では多くの学科で4月、上級生が新入生向け懇談会を開催している。4学科で行われた懇談会の様子を紹介しよう。



[歴史文化学科]

「上級生なんでも質問大会」を開催し、対面とオンラインの2部構成で新入生の悩みや不安を解決した(写真上、下)。新入生にはあらかじめ参加学生を紹介する資料を配布し、当日は資料に関する情報も含めて質問が飛び交った。

対面では感染防止のため、例年のような密接なコミュニケーションは避け、上級生が新入生に向けて伝えたい内容を話す講義形式で実施した。続くオンラインの会では、新入生から対面で聞けなかった質問が相次ぎ、キャンパスライフや授業、アルバイト、プロジェクト、留学など幅広い話題で盛り上がった。

後日、連絡先を交換した新入生から、新たな質問や感謝の言葉をたくさん受け取った。企画段階から参加し、結果として少しでも新入生の不安を取り除くことができたと感じる。新入生と上級生を繋ぐ時間となった。

[国際学科]

「懇談会」と名付け、Q&Aを対面で開催した。感染防止のため、1年生はゼミごとに13人程度に分かれ、2年生は各クラス代表の2人ずつが参加した。まずお互いの自己紹介を行い、2年生が1年生からの質問に応じた。

大学周辺の美味しい食べ物や授業内容、学業とクラブアクティビティの両立など多岐にわたる自由な質問が挙がった。入学直後だったため、1年生は何を聞いたらいいのか、まだわからないこと自体がはつきりしないという状況も窺えた。懇談会を通して1、2年生のつながりができ、疑問や不安が減った様子を感じられた。来年への改善点として、上級生が積極的な紹介プレゼンテーションを行い、国際



学科の強みである5つの選択言語に分かれて交流すれば、さらに有意義になりそうだ。

[英語コミュニケーション学科]

懇談会は、オンラインツールZoomのブレイクアウトルーム機能を利用し、上級生2人と新入生5人程度のグループを組んで開催した。

グループごとに企画は違うが、ある班の場合、上級生がパワーポイントでプレゼンテーションを行ったうえで質問コーナーを設けた。プレゼンテーションは、「留学の紹介とアドバイス」「日本で的大学生生活」「Global Networkの紹介」のテーマで行った。「留学の紹介とアドバイス」では、すでに留学に行った上級生から「長い修学旅行」になってしまわないよう、積極的に外で活動する機会を自分で掴むことの大切さ」を伝えた。

4年・長谷川杏奈さんは、「少しでも興味のあることに、とりあえず挑戦してみるものの大切さを伝えたかった。新入生に有意義な大学生活を過ごしてほしい」と話していた。



[現代教養学科]

上級生が4つの企画をプレゼンテーションする形で行った。(写真上)(1)現代教養学科で活発に行われているプロジェクトの紹介(2)学寮研修を中心に行事紹介(3)先生方の紹介(4)新入生から事前に集めた質問に上級生が回答する質問コーナー、で構成された。中でも好評だったのが(3)である。

「Teachers cruise」と題し、先生方を野生動物に例え、先生方を探索しながら紹介していった。野生動物のチョイスは、それぞれのゼミ生に協力してもらいながら決定したため、上級生たちも納得の例えだった。新入生の小島光遥さんは「本物のジャングルクルーズの船長みたいで驚きました。私も人を惹きつけるようなプレゼンをしてみたい!と思いました」と感想を話していた。

『For Our Dreams』学園イメージソング ミュージックビデオができるまで

日本語日本文学科4年 石井七海

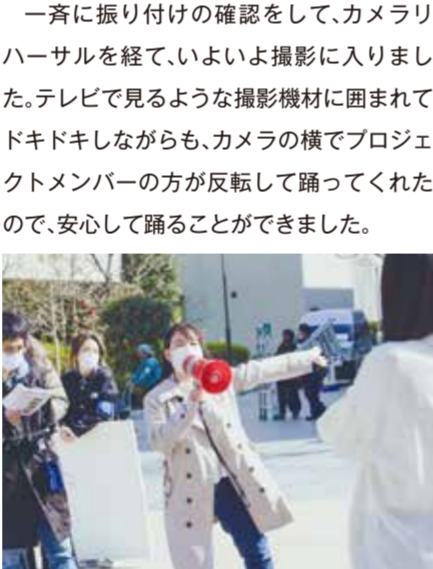


昭和女子大学創立100周年を記念して学園イメージソング「For Our Dreams」が誕生、2017年からのプロジェクト集大成として、ミュージックビデオ(写真)が完成しました。メンバーの声とともに、撮影に参加した立場から、完成までの裏側をお伝えします。

100年の歴史を感じて

撮影は3月に昭和女子大学構内で行われ、私はサークルEncoreの仲間と一緒に参加しました。事前にプロジェクトメンバーから振り付け動画を送ってもらい、振りを覚えて本番に臨みました。当日は私服参加だったのでそのまま現場へ。パドミントン部はユニフォームにラケット、競技ダンス部はドレスにハイヒール、食健康科学部は白衣に野菜など、所属ごとに個性あふれる服装の人がいました。

一斉に振り付けの確認をして、カメラリハーサルを経て、いよいよ撮影に入りました。テレビで見るとような撮影機材に囲まれてドキドキしながらも、カメラの横でプロジェクトメンバーの方が反転して踊ってくれたので、安心して踊ることができました。



[キャリアをデザインする]

CAREER

「キャリア教育」の学び、「キャリア支援プログラム」のサポート、社会で活躍する女性「社会人メンター」のアドバイス、3つの柱で一人一人のキャリアデザインを支援します。

昭和女子大学で 教職課程を履修すると 忙しい?

英語コミュニケーション学科 4年 平良かれん

昭和女子大学には、学科によって教育職員免許状が取得できるカリキュラムがあります。取得するためには、「教育の基礎的理解に関する科目」や「教科及び教科(領域および保

育内容)の指導法に関する科目」などに該当する科目の単位を修得します。教職課程を履修していない学生に比べ忙しくなる傾向がありますが、多くの教員志望の学生や教育に興味をもつ学生が教職課程を履修し、教育職員免許状を取得しています。どんなスケジュールになるのか、具体例を紹介します。

教育職員免許状が取得できる学科

大学で教員免許が取得できるのは、原則として日本語日本文学科(中学・高校国語、高校

[グローバルに学ぶ]

GLOBAL

アメリカには海外キャンパス「昭和ボストン」、敷地内には米ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパスがあり、グローバル人材育成に最適な環境です。

【学生体験記】 「昭和ボストン」 オンライン留学

ビジネスデザイン学科 3年 井上由菜

昭和女子大学は、アメリカの学園都市ボストンに海外キャンパス「昭和ボストン」があります。ビジネスデザイン学科は昭和ボストンへの留学が卒業要件となっています。本来は昨年、2年次で留学する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期に。その後も渡航が叶わないため、今年3月から日本でボストンの授業のみを受講する「オンライン留学」の日々を送っています。

◆授業

授業はオンライン会議ツールZoomを通じて受けています。日本時間午前8:30から授業が始まり、曜日によって異なりますがお昼時まで、現地時間では夜中まで先生方が授業をしてくれています。授業1コマが50分間で10分休憩をはさみ、次の授業が始まります。

授業は1年次に学習したビジネス5つの知(顧客づくり、組織づくり、経営資源づくり、視野づくり、経済的思考)をベースに専門分野を英語で学びます。さらに、専門分野の他にReadingやWritingなどの授業で英語力を高めることができます。

授業資料はMoodle(ムードル)という昭和ボストンの在学生向けポータルサイトからダウンロードして印刷します。毎回課題が出され



ます。授業後に取り組んだ課題はMoodle上で提出し、先生からフィードバックをもらいます。先生への質問はメールやZoomを通じて直接聞くことができます。

◆授業外の活動

昭和ボストンでは授業以外にもオンラインで行う様々な活動があります。例えば、交流会やプロジェクト活動では現地の人々と交流しながら、学生たちで考えたアイデアをビジネスとしてどう成立させるかを考えます。また、ゲストにアメリカでCEOとして活躍している女性の方などを招いて、リアルな話を聞く会もあります。

◆オンライン留学が始まって

オンラインで留学することが決定したときはとても残念でしたが、自宅一人で授業を受講することがとても心配でした。

オンライン留学が始まった3月中旬は課題が多く、日米の授業形態の違いに戸惑いました。日本では学生が先生の説明を聞くことが多いのに対し、アメリカでは先生が学生に意見を聞きながら、授業中は発言することが多く、かつ、自分の意見に対し、なぜそう思ったのかという理由をよく聞かれます。質問に答えることで自分の意見とその理由を考える習慣ができました。

当初は不慣れなオンライン留学で大変でしたが、今では充実した日々を過ごしています。分からないことは友人や先生に聞き、授業では積極的に発言しようと努力しています。現地に行くことは叶いませんでしたが、日本にいながオンラインで留学できることをうれしく思います。

TUJ (テンブル大学ジャパンキャンパス) 「単位互換プログラム」 参加体験を聞く

国際学科 2年 高橋未優

昭和女子大学構内にはテンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)があります。互いに単位を認定しあう「単位互換プログラム」を利用し、認定留学生(2020年秋季学期)と科目等履修生(2021年春季学期)としてTUJで学んだ国際学科G.Kさんに話を聞きました。

Q. なぜこのプログラムを選んだ?

A. TUJのプログラムは自分で学びたい科目を選ぶことができることと、TUJでは日本語を全く使用しない環境で学べるためです。

Q. 何を履修したのか?

A. 英語(英語での論文の書き方)、現代世界史、音楽史、ミクロ経済学、グローバルゼーションと発展に関する授業の5科目です。

Q. 大変だったことは?

A. 論文の書き方を学ぶ英語の授業です。1学期に3つのテーマが出され、それぞれ4回以上の添削指導を受け、ひたすら書き直しました。根拠を述べながら一貫性をもったエッセイを書くのは難しかったのですが、クラスメイトと議論しながら、方法を身につけられたと思います。

Q. どのくらい勉強するのか?

A. 1科目につき週に2、3回授業があるため、

1科目にかかる時間は日本の大学で学ぶ時と比べ倍に増えました。浅い知識だけで終わらず深掘りできる点が魅力で、勉強の質が上がったように感じます。オンラインの時期に留学したため一人で作業することが多く、休みをとりながら、自分のペースを掴む重要性を認識しました。

Q. 英語の勉強法は?

A. Readingは英文の音読や毎日英字新聞を読んでいます。Listeningは、YouTubeなどで積極的に英語を聞きます。Speakingは、シャワー中などの隙間時間にListeningで覚えたセリフで一人居る練習をしています。Writingは、授業等の英文文をとことん利用し「慣れ」を意識しています。特にSpeakingはTUJの授業でも必要で、英語のフレーズを覚えて積極的にアウトプットすると良いと思います。

Q. 履修したいと思っている学生へ一言

A. 両手を広げて「新しさ」を受け入れられるオープンマインドが効果的な学びにつながると思います。



「withコロナ時代に新しいノーマルをどう創るか」をテーマに、サブトピックとして「高齢者と労働力」「若年失業」「職場における多様性・包摂性」「地球温暖化と経営意思決定」「企業とイノベーション」の5つを設定、両校の学生約70人が10チームに分かれてプレゼンテーションを行います。2日にわたり講義を受け、約5週間情報収集して、話し合い、使用ツールの違いや時差の壁にぶつかりながらも発表に向けて準備しました。

このプログラムでは、異文化理解、英語力、問題を多角的に考え解決する力、パブリックスピーキング、協調性など様々な力が求められました。私はプログラムを通して、英語に自信がなくても、まずは自分ができることから挑戦すれば、助け合いながら課題をクリアしていけると学ぶことができました。

キャリア支援3つの柱

01
自分の生き方を設計する
キャリア教育

02
一人ひとりに合わせた
キャリア支援プログラム

03
将来なりたい自分に出会う
社会人メンター制度



教職を履修する学生は 忙しいのか

免許状取得に必要な単位数の中には卒業要件に含むことができる単位もあります。一見ハードに見える時間割ですが、履修する時期や科目を工夫して修得することで、留学、アルバイト、サークルと両立して充実した大学生活を送ることができます。もちろん授業数が多いので試験前などは忙しくなりますが、同じ教職課程の履修生と励まし合いながら、充実した学生生活を送れると思います。

に介護等体験に7日間、また4年次には教育実習に約4週間行く必要があります。

2020年
3月卒業生の
実就職率* **97.0%**
全国の女子大学
「10年連続 No.1」
の快挙達成

昭和女子大学の2020年3月卒業生(2019年9月卒を含む)の実就職率が97.0%となり、「2020年最新実就職率ランキング(大学通信発表)」で、卒業生1000人以上の女子大学で10年連続ナンバー1を達成しました。卒業生100人以上1000人未満も含めた女子大学の中でもトップ、共学校を含む全国では5位にランキングされました。(大学通信調べ)
*2020年3月卒業生の実就職率(実就職率=就職者数÷[卒業者数-大学院進学者数]×100)
卒業生1,000人以上の全国の国公私立大学中